

令和7年度 目黒区立東山小学校 学校評価報告書

1 学校評価委員会の実施内容

- (1) 第1回実施日時 令和7年6月7日(土) 午前11時30分～午後0時30分
 ・令和7年度東山小学校 経営方針について
 ・令和7年度東山小学校 主な学校行事について
- (2) 第2回実施日時 令和8年1月24日(土) 午前8時35分～午後0時00分
 ・道徳地区公開講座
 ・令和7年度四者による学校評価について
- (3) 第3回実施日時 令和8年3月6日(金) 午後1時40分～午後3時00分
 ・6年生を送る会
 ・令和7年度東山小学校 学習指導・生活指導・研究について報告

2 参加者

- 第1回 学校評議員・校長・副校長・教務主幹・生活指導主幹
 第2回 学校評議員・校長・副校長
 第3回 学校評議員・校長・副校長

3 評価の結果等

評価項目	◎(成果)、●(課題)、 ○(成果と課題の両者を含む)	次年度の 教育活動の 改善点	学校評価 委員会での 意見
学校全体について ・学校の雰囲気、学習環境、教職員の態度などについて、家庭・地域との連携、地域人材の活用などについて	◎雰囲気・学習環境・教職員の態度について、児童・保護者・地域の肯定的評価がおおよそ9割を超えており、教育活動全体への満足度が高い状態だと言える。 【成果につながったと考える取組】 ・学校・学年だよりの構成の工夫 ・宿泊行事中の児童の様子タイムリーなホームページ掲載 ・外部人材の活用(ゲストティーチャー・特設クラブの外部指導講) ・住区のイベントへの教員の積極的な参加	以下の点について、次年度も継続して行う。 ・学校・学年だよりの構成の工夫 ・宿泊行事中の児童の様子タイムリーなホームページ掲載 ・外部人材の活用(ゲストティーチャー・特設クラブの外部指導講) ・住区のイベントへの教員の積極的な参加	・学校の発達段階に応じた系統的な指導が、児童の成長を促していることが分かる。 ・住区との連携の仕方については、参加行事の精選等、新

	<p>➡学校教育についての理解の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年の教員、専科教員、特別支援教室担当、SC 等が連携 <p>➡児童の安心感の向上</p>		<p>たな形も模索し共通理解を図る。</p>
<p>I 教育目標について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育目標、時程、教育内容全体について 	<p>◎保護者の肯定的評価が 9 割を超え前年度同様の高い水準を維持し、区の結果を大幅に上回っている。</p> <p>【成果につながったと考える取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究開発に伴う授業改善、研究発表会に向けての情報発信 <p>➡児童の「主体性」を育成する本校の教育についての理解</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、児童の主体性を育むための教育カリキュラムに基づき、学習・生活面や様々な活動についての工夫を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き現在の取組を続けてほしい。
<p>II 心の教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳科の授業の充実や児童・生徒の道徳的実践力の向上に向けた取組について 	<p>◎児童の肯定的評価が 9 割を超えている。</p> <p>【成果につながったと考える取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳科を要とした様々な活動 ・児童主体の生活指導や東山小教育マップの周知 ・学校公開や道徳地区公開講座での道徳科の授業公開 <p>➡全校児童が落ち着いて学校生活を送っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の発達段階に応じて、自己の生き方について考えさせる道徳科の授業実践や生活指導をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク等で受け止めてもらえる経験を通して考えや思いを伝えられる様子が見られたので、そのような取組を大切にしてほしい。
<p>III 学習指導等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力の定着・向上に向けた授業の改善・充実、少人数指導、マイスタ、主体的に学習に取り組む態度等の取組について ・職場体験等体験活動、自然宿泊体験教室、キャリア教育等の充実について 	<p>◎児童・保護者の肯定的評価が 9 割を超えている。</p> <p>【成果につながったと考える取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度から取り組んでいる自己調整学習や算数少人数指導における授業改善 ・自学自習「マイスタ」 <p>➡児童が主体的に学習に取り組む姿勢の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究開発に伴う授業改善、研究発表会に向けての情報発信 <p>➡保護者の理解</p> <p>●区の学力調査の結果や、普段の</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の研究開発の成果を生かし、東山小版自己調整学習を各学年の年間指導計画に位置付け、全学年で取り組む。児童の実態に合わせて、教材開発は継続していく。 ・校内の研修組織を生かし、教員の授業力育成を図るための OJT 研修を継続的に行い、ICT 環境を活用した「できる・わかる」授業づくりに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2年間に渡る研究の成果が見られる。今後も引き続き研究開発を続けてほしい。

	<p>学習の様子から、算数科では全学年において学力の二極化への対応が求められる。</p>	<p>・知識習得・定着のため、マイスタの時間を活用し、授業の効果を高める。</p>	
<p>IV 体育・健康教育について</p> <p>・体力向上、健康の促進に向けた取組について</p>	<p>◎児童の肯定的評価が昨年度より上昇している。</p> <p>【成果につながったと考える取組】</p> <p>・ペースランニング週間やなわとび週間、体育委員会の外遊びキャンペーン等</p> <p>➡児童の意識向上</p> <p>●体力テストの結果を踏まえた取組を進める。</p>	<p>・引き続き、スポーツテストの結果を分析し、児童の運動課題の解決に向けて、現状の体育的活動を継続しながら、体育科での運動や休み時間の運動で解決を図る。</p>	<p>・学校で様々な運動経験をさせることを通して児童・保護者に運動の重要性を啓発していく。</p>
<p>V 特別活動について</p> <p>・学校行事の充実、異学年交流活動、クラブ・部活動の充実などについて</p>	<p>◎児童の肯定的評価が9割を超えている。</p> <p>【成果につながったと考える取組】</p> <p>・児童主体の委員会やクラブ活動</p> <p>・学校行事等での実行委員制度や児童のアイデアを生かす取組</p> <p>➡児童の主体性の高まり</p>	<p>・クラブ活動や委員会活動、学校行事や学年行事等において児童の主体的な取り組みを推進し、自己肯定感や自己有用感の醸成に努める。</p>	<p>・学校行事でも取組の成果が見られた。</p>
<p>VI 学校生活全般について</p> <p><生活指導></p> <p>・生活規律の徹底、いじめや不登校の現状と対応、教員の関わり方、特別支援教育への取組などについて</p>	<p>◎地域や保護者の肯定的評価が区の値を大きく上回っている。また、高学年児童の肯定的評価も同様である。</p> <p>【成果につながったと考える取組】</p> <p>・「東山小の教育マップ(生活と学習)」を作成し、教員・児童・保護者が学校生活に対する共通理解を図る。</p> <p>・裁量の時間を活用して、年2回以上、各学級で児童の個人面談を行い、学習面や生活面で不安なことを担任教諭に相談できる体制の整備</p> <p>・生活の様子についての情報発信(HP・学校・学年だより)</p> <p>・特別支援教室「いちよう」での個に応じた指導や支援</p> <p>➡児童が安心し、落ち着いて学校生活を送るための環境の整備</p> <p>●児童や家庭にはケースに応じて学</p>	<p>・引き続き保護者会等で、学年段階に応じた「自主」「自律」に向けた活動を重視するとともに、いじめ防止の取組や対応を、学校だより・学年だよりや生活指導便り等で説明する。</p> <p>・様々な児童への対応やかわり方について校内で共有していく。「東山小の教育マップ(生活と学習)」を徹底し、児童が安心できる環境づくりに努める。学年団を中心に、担任の児童理解とともに、児童同士のより良い関係づくりに重点を置き、学校行事なども生かして取り組んでいく。</p>	<p>・学習用情報端末を活用する中で、使用ルール等を家庭も含めて守れるようにしていく必要がある。児童のコミュニケーション力の育成も引き続き需要と考える。</p>

<p><防災教育・安全指導></p> <p>・事故や災害に関する安全教育や情報モラル教育の充実、安全管理などについて</p>	<p>校体制で支援を継続する。</p> <p>◎四者とも肯定的評価が高い水準で推移している。</p> <p>【成果につながったと考える取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練や引き取り訓練 ・情報モラルについての取組と周知 ・保護者参観可能な各学年のセーフティ教室 ・安全指導日の生活指導主任の話 <p>➡安全指導の充実と周知</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き生活指導主任による、毎月の全校に向けた安全指導、ICT 部と連携した情報モラル教育を継続していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の際、住区との連携を図っていく。
<p><幼・保・小・中連携></p> <p>・中学校や同じ中学校区の小学校との連携について</p> <p>・近隣の幼稚園・保育園との連携について</p>	<p>◎教員間の連携意識は高まっている。一方、定期的に情報発信を行っているものの保護者の「わからない」という回答が一定数見られる。</p> <p>【成果につながったと考える取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動会や地域行事への中学生のボランティア参加 ・東山中学校の授業体験(5年) ・運動会・学芸会練習見学(幼保) ・5年生と新1年生との交流授業 ・連携の取組についての周知 <p>➡発達段階におうじた必要な指導や支援の理解・教職員間の連携意識の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校区、ひがしやま幼稚園と園児・児童・生徒間交流とともに、教員の研究授業や研修会参加等を引き続き行い、連携強化を図っていく。 ・学校だよりやHP等で連携の様子について情報発信を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・工夫して連携している。
<p>VII 情報の発信</p> <p>・学校の情報発信の充実について</p>	<p>◎保護者の肯定的評価の割合が9割を超えている。</p> <p>【成果につながったと考える取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりやホームページの情報を精選し、写真等を活用して内容の充実を図る ・災害発生時等の緊急対応の即時性(H&Sの活用) <p>➡保護者や地域のニーズへの対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「開かれた教育課程」を目指し、引き続き各お便りやH&Sを活用しながら、教育活動への理解を求める。 ・学校だよりと学年だよりの統合を進め、情報が一元化できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き毎月の学校だより等で情報発信をする。
<p>VIII 教員の人材育成について</p> <p>・日常の職務をとおして専門性と協働性の育成、教育公務員の自覚について</p>	<p>◎教職員の肯定的評価が9割を超えている。</p> <p>【成果につながったと考える取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究発表会の開催 ・校内OJT研修 <p>➡授業改善とともに、児童の主体性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度も研究開発を行っている東山小版自己調整学習の実践研究を進め、各教科の教育計画の中に位置づけることで教員の授業力向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・40分授業午前5時間制の開始により、教員の研修時間の充実が図られ

	<p>を育てる教育活動を校内全体で実践</p>	<p>・大規模校の特徴を生かし、校内の東京教師道場部員の公開授業の参観など、互いに学び合うことのできるOJT研修を行う。</p>	<p>ているのは意義がある</p>
<p>IX 教員の働き方改革について</p> <p>・校務支援システムの活用、「チーム学校」を意識した業務分担等、組織的な業務の効率化・最適化について</p>	<p>◎前年と比べて肯定的評価が大きく上昇した。</p> <p>【成果につながったと考える取組】</p> <p>・40分授業午前5時間制を生かした様々な取組</p> <p>・教育活動の変更、教師のための余白の時間</p> <p>➡取組の成果を実感</p>	<p>・引き続き、校務改善を図るとともに、週時程を工夫し、校務処理や授業準備の時間の確保や、年間行事予定や活動の精選などを積極的に進める。</p> <p>・教職員に学校として工夫している点を周知し、その中で自分がどのように校務の質を上げていくかを考えることができるようにする。</p>	<p>・取組の成果が見られていることがよい。</p>
<p>XI 服務事故の防止について</p> <p>・服務事故防止に向けた取組などについて</p>	<p>◎日頃から組織的に服務事故防止に取り組んでいる。</p> <p>【成果につながったと考える取組】</p> <p>・年3回の服務事故の防止研修(シミュレーション研修含む)</p> <p>➡教育公務員、そして学校職員としての自覚と意識の向上</p>	<p>・引き続き、全体研修に加え、時期や内容に応じ、学年や分掌で互いに服務事故の防止のための具体的な取組を行う。</p> <p>・引き続き、児童の個人面談を行い、児童理解に努める。</p>	<p>・引き続き、工夫して事故防止に取り組んでほしい。</p>